

第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 「総合開・閉会式会場」選定（案）

- 総合開・閉会式会場として重要な要素となる会場・周辺のスペース及び収容力については、「松本平広域公園陸上競技場」と「長野オリンピックスタジアム」の両施設は、いずれの項目においても必要となる要件を満たしている。（「別紙」参照）
- 本県の「総合開・閉会式会場選定基本方針」を踏まえるとともに、運営上の観点から、総務企画専門委員会委員の下記のような意見を総合的に判断した結果、2027年の第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会における総合開・閉会式会場は、**松本平広域公園の陸上競技場**とする。

記

【陸上競技場での実施・県有施設の活用】

- 国体及び全国障害者スポーツ大会の総合開・閉会式は、入場行進から整列までの一連の利便性等の運営面を考慮し、陸上競技場で行うことが先催県の状況からも一般的である。
また、総合閉会式への参加者確保の観点からも、最終日まで競技が実施される陸上競技場を会場とすることが適当である。
併せて、総合開・閉会式の運営は県が行うことに鑑み、県有施設である「松本平広域公園陸上競技場」はふさわしい施設だと考える。

【全国障害者スポーツ大会・アスリートファーストからの視点】

- 国体に引き続き開催される全国障害者スポーツ大会は、閉会式においては全選手・監督及び役員を含め約5,000名が参加する。各競技会場からの移動、また参加者が多い陸上競技の競技日程等を考慮すると、県のほぼ中央に位置する陸上競技場で開催することが理想的であると考えます。
さらに、全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、「総合開・閉会式会場選定基本方針」により、国体と同じ会場で行うことを原則としており、経費や運営面などからも、国体と同じ会場で行うことがふさわしいと考える。

【レガシーの尊重】

- 昭和53年(1978年)の「やまびこ国体」において陸上競技会場となった「松本平広域公園」は、国体における貴重なレガシーであり、その競技場は、その後の陸上競技の発展に大きく寄与したことから、再びこの場所にスポットライトを当て、本県の更なるスポーツ振興へと繋げていきたい。